保健委員になって

昭和六十三年度　四年　女児

わたしは、前から前期の保健委員の仕事を見ておもしろそうだなあと思っていました。わたしは、体温計で熱をはかったりすることがすきなので、いいなあと思っていました。そして、もう一度なにかの委員になってみたいなあと思いました。

四年一組の委員の決め方は「進んでやる」「せきにんをはたす」と思う人男三人女三人を紙に書いて集めます。それを学習係が計算して人数の多い人が委員になるのです。委員に選ばれた男、女は別々に何の委員になるかを決めて、決まったら先生にほう告するのです。それでわたしが保健委員になったのです。

第一回の保健委員会にいって、わたしは、一ぱんになりました。同じクラスの白さきひろし君も、一ぱんになりました。その他の一ぱんの人も、見おぼえのある人ばっかりで、ほっとしました。

次の日は、さっそく保健の仕事です。わたしは早くあしたにならないかなあと思いました。

次の日の中間休みになりました。わたしは急いで保健室に行きました。すると、五年の大友さんとあべ君がいました。わたしは、初めてなので、少しどぎまぎしました。だれも来ません。だまりこんでいたら、えり子さんが顔を戸からのぞかせて、わたしを手まねきしました。行くと、「んとね、そこのペーパーを戸だなからとって、はこに入れるんだよ。」と教えてくれました。えり子さんは、四年一組の前期の保健委員だったから分かったのでしょう。わたしは、そのとおりにしました。

それから、あべ君と大友さんが、いろいろわたしとひろし君に教えてくれました。二人は、とってもひょうきんでやさしく教えてくれました。

毎日、中間休みと昼休み、これをずっと続けていくと、少しずつ分かってきました。けれども、けが人とかは、一人も来ません。わたしは、だれもこないのでつまりませんでした。それをずっとくり返していくと、やっとだれかが来ました。なんと、同じクラスの京子さんです。

さっそく、体温をはかってみました。すると三十七度以上ありました。京子さんは、熱があるのにぴんぴんです。だから、あべ君とひろし君と大友さんとで、ねかせました。

けれども、京子さんは、はずかしがって、ねようとは、しませんでした。

「京ちゃん、ちゃんとねて、ね！」と、わたしが言ってもねませんでした。チャィムがなって、もどらなくてはいけなかったので、そのままにして行きました。わたしは、もどってからも、京ちゃんねてるかなあと心配でした。

次の日の中間休み、ひろし君と保健室に行きました。あべ君達が来ません。そのうち、一人二年生の女の子が入ってきました。その子は頭つうでした。わたしとひろし君は、京子さんが来た時のように、熱をはかりました。

五分間の砂時計がまだ終わらない時、わたしは、どきどきしながらまってると、ちょうど砂時計が終わりました。大友さん達は、まだ来ません。女の子から体温計を受け取って見ると、どこが線なのか分かりません。先生に聞くと、「あれ、さがってるよ。」とおっしゃいました。失ぱいです。だから、今度はうまくいけばいいなあと思いながら、もう一回はかりました。今度は、うまくいきました。わたしは、初めてひろし君と二人で保健の仕事ができたのでうれしくなりました。

わたしは保健委員になってよかったと思いました。これからもがんばっていきたいです。